

山北町・持続可能な林業の試み

2021 年 1 月 17 日 伊形順子

神奈川県足柄上郡山北町の林業について、2020 年 8 月 13 日に下見、10 月 25 日に見学会（14 人参加）を行った。その時の説明会・見学会で得たことと、ネット上で調べたことを追加して、山北町の持続可能な林業について述べてみたい。なお、この見学会は、緑の党林業プロジェクトの吉岡正子さんが企画したものです。また、説明会・見学会でお話下さったのは、山北町役場農林課の方と、林業をやりたくて山北に越してきた富田陽子さん（なる人がいないので山北町議にもなった方）、「共和のもりセンター」の方です。

① 山北町の成り立ち

1955 年に共和村と他の 2 村が合併して山北町になった。神奈川県最西端。山梨県・静岡県と境を接する。ほぼ中央に 1978 年完成の丹沢湖がある。共和地区の昔の人口は 700 人位だった。現在、山北全体で 2 歳児は 40 人位。川崎市は毎年子供が 1 万人生まれる。土地の広さと比較してみてください。（比較：山北町の広さは 220 km²。川崎市は 140 km²。）



大野山山頂から見る丹沢湖



麓に広がる茶畑

山北町は現在、人口は 1 万人弱。就業者は半分位。林業従事者は少なくサラリーマンが多い。元は御殿場線の検車場だった。その昔は東海道線が御殿場を通っていた。そのため元鉄道員が多い。

② 山北町の人口減少をなんとかしよう

- ・町営の「共和のもりセンター」を作った。会議室・講演会室あり。前庭で体験イベントをやる。

体験イベントの例・・・竹の箸作り、炭焼き体験、藍染め・草木染体験、梅ゼリーづくり、シイタケの菌打ち体験、カッティングボード作り。調理室を改良して『カフェ くすのき』を作った。大野山の登山ルートの一部なので、弁当の直売もやっている。ミカンなどの農産物も販売。

- ・共和バスという福祉のバスを走らせている。小学生の送り迎えを定期便で軽自動車を使ってやっている。

- ・体験学習の受け皿を作る。

- ・山北町と川崎市でパートナーシップ協定を結んでいる。山北は川崎市民の水源。川崎市の親子を年に 3 回招待し、体験活動をしている。森林の草取り・スイカ割り・ヤマメのつかみ取り（2020 年はコロナで実施できなかった。）富田さんたちが川崎市の小学校に出前授業に行ったりしている。

・県が力を入れている『みびょうの里』の未病バレー「ビオトピア」の催しで、1泊2日のキャンプのイベントに協力している。

※ビオトピア:神奈川県黒岩知事とブルックスホールディングス(株)と大井町の3者が設置。

2018年4月に大井町山田にオープンした施設。

・共和のもり・・・H21年(2009年)から取り組む。共和財産区共有林。330ヘクタール。

それまでは、県に貸したり、国に貸したり、森林組合に貸したりで、ほったらかしだったので、この山を宝の山としたら、仕事ができ人が来るのではないかと考えた。

・共和地区の移住者募集について

空き家が多いので、移住者を増やそうと、シェアハウスを作った。広い家1棟、9部屋ある。結婚奨励金、子育て支援金がある。今、富田さんは林業だけでは生活できないが、支援金があるので助かっている。



共和のもりセンター前で集合写真

③ 山北町の林業(戦前から戦後にかけて)

山北町は、神奈川県の北西部に位置する。丹沢湖をもつ。山北の奥山としての極相(自然にしておいた場合の森の最終形態)は、常緑広葉樹のスダジイやアラカシだ。昔はここにクヌギやコナラを植え、燃料のまきにしていた。また、茅葺屋根をふく為に、1軒ずつカヤ(ススキ)を育てる場を持っていた。(カヤはススキなどの総称)

戦後の昭和30年代に国はスギやヒノキの植林を奨励した。苗木を1本植えたら100円もらったので、谷にも斜面にも植えた。だが、手入れの指導はしなかった。植えただけであった。植えた木を育てて伐採し、また植林をしなければいけないのにそのサイクルがうまくいっていない。枝打ち(下枝を払うこと)や間伐(過密になったスギやヒノキを適切な成育状態にする為伐採すること)をしていない。下枝を払っていない為、木に節がある。また、アカネトラカネカミキリムシが入りこんで、マッチ棒より少し大きい穴があく。

※間伐はどうして必要か・・・スギやヒノキが深く根を張れる。光が地面まで届き、草木が生えやすくなり栄養豊富な森になる。スギやヒノキのまっすぐな成長を促す。倒木や土砂崩れ洪水の災害を防ぐ。

昔からの林業は、おじいさんが苗を植え、子供が育て、孫が売る。そこへ外材が入ってきた。石油も入ってきた。竹製品、木製品は今では、プラスチックになっている。昔、ヒノキを育てると、1年につき1万円で売れると言われてきた。50年のヒノキで50万円、100年で100万円。しかし、山北のアカネ材（アカネトラカネカミキリムシが入り込んだ木材）は、市場に出してもチップとして使い、補助金（水源環境税）を入れてやっと日当が出るだけ。1本100円～300円でしか売れない。

（アカネ材は大根1本の値段と同じという、残念な状況。）

山北町の森の所有者・・・丹沢湖のほうに国有林がある。県有林と町有林も少しある。全体的には民有林が多い。その、民有林を神奈川県が借りて整備をしている。

神奈川県の方針・・・山北の森は、川崎市や神奈川県西部の水源。森が整備されていると、良い水ができる。良い水を作る為に、間伐をしなさい。開発はしないように。

国の方針・・・「森林環境税」を作って、それは2026年に始まる。林野庁の方針・・・森林を経営しなさい。個人が森林を経営できない場合は、市町村でやりなさい。

③ 『水源環境税』と『森林環境税』について

・山北町の山は、神奈川県西部の水源になっている。神奈川県は「水源環境税」があり、納税者一人から年間1000円徴収している。その財源が40億円ある。一般会計で30億円位もらえている。令和8年（2026年）になると、「森林環境税」というものが始まる。（2019年4月に国で決めた。）今は、神奈川県が借入金を原資にして配っている。木材利用などその中にそっていれば良いよというざっくりしたもので、県から市町村に「森林環境譲与税」という形で与える。神奈川県は、今「水源環境税」を県民から徴収しているが、そのうち「森林環境税」も取るようになる。

・県民一人から1000円徴収するのは、「水源環境税」も「森林環境税」も同じ。しかし、集めた「森林環境税」は人口比で割り振るので、川崎市や横浜市に多くいく。40億円徴収しても、30億円は都市部にいき、森には、西部で1億円、東部で9億円しかもらえない。山北は9割が山なので、山林をどうにかしないとイケないのだが、森林環境税からの金が、山北町には640万円いき、横浜市には1億5000万円いくとなっている。

・森林環境税を受け取った場合・・・森林環境税を受けると、森林の所有者は20年間手を加えられない。富田さんは、2つ山を譲ってもらった。1つは、自分が木を切れるようにした。1つは県に貸しているので、木は切れない状態である。

※【水源環境税】とは、森林の水源涵養機能に着目し、その機能の回復・維持等のために森林管理費用の一部を受益者が負担する税制。該当する森林の流域に関連する住民や企業の水道料金に、税金を上乗せするなどの手法がある。法定外目的税として徴収できる。水源税は、森林がもつ多様な公益的機能を回復、維持するための負担を住民に求めるものである。

※【森林環境税の創設】

平成31(2019)年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立した。

これにより、「森林環境税」（令和6(2024)年度から課税）及び「森林環境譲与税」（令和元(2019)年度から譲与）が創設された。

【森林環境税創設の趣旨】

森林の有する公益的機能は、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や水源の涵養等、国民に広く恩恵を与えるものであり適切な森林の整備等を進めていくことは、我が国の国土や国民の生命を守ることにつながる一方で、所有者や境界が分からない森林の増加、担い手の不足等が大きな課題となっている。このような現状の下、平成30(2018)年5月に成立した森林経営管理法を踏

まえ、パリ協定の枠組みの下における我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から森林環境税が創設された。

④ 林道の台風被害について

・大野山には林道が通っている。これは県が20億円くらいかけた林道。開通して2～3年たつ。2018年の台風19号で道がえぐれた。道の端にL字溝を作っているが、雨水の量が多くて流れがきれずあふれる。山の地形は水がどう流れるか分からない。やっと林道ができて木が切り出せるということになったが、今林道が壊れている。県は年に1億円かけて林道を修理しているが、さらに大雨で崩れるので、間に合わない。

・土砂崩れについて・・・スギ・ヒノキでは岩盤に根が入らない。広葉樹のほうが岩盤に根が入るので、それもあり、クヌギ・コナラを植えている。



林道（2019年台風19号の爪痕）



野生動物よけの柵の中でヘキサチューブをつけた苗木を育てる。

⑤ 「NPO 法人共和のもり」の試みについて

共和のもりは、山北町の大野山に共和財産区をもっている。森林保全・再生・活用を目指し、農林業・農産加工品開発を行っている。潤いや癒しのある暮らしづくり、地域づくりに寄与する団体である。

町営の「共和のもりセンター」という活動拠点をもっている。旧共和小学校の校舎を地元の間伐材で内装の改築を行い、地域の方々が活用できる施設。炭焼き小屋、製材所も近くに建てた。

共和財産区は、入会権（いりあいけん）である。共和財産区の広さは330ha。地域の財源にした。東京電力の電線が通って線下補償が入った。財産区の管理は自治体が推薦する人が行う。その財産区から平成元年くらいまで、お金を出してもらい、山北に移住する人を募集した。それに応じて来たのが、2014年に越してきた林業家の富田陽子さんや山地酪農を営む人たちだ。



共和のもりの製材所



切り出した木材（アカネ材と良い木に分ける）



私たちは共和のもりセンターで話を聞きました。



教室の天井 「アカネ材の穴を詰めて使っている。

⑥ 共和財産区の林業

富田さんの目標・・・宮脇式の森づくりをしたい。経済的林業でなくいのちの森。補助金頼みでない林業。

※宮脇昭：元横浜国立大の教授・鎮守の森という考えを広めた。

自伐採型林業を目指す。持続可能な林業をする人が森を持つ。自然が好きな人が持つ。

そういう斡旋を町がやって欲しい。（不法投棄の為に森を購入する人がいるので注意）

「苗木の学校」・・・クヌギ・コナラの森づくりを行っている。植林は共和の林業に興味のある若い人に植えてもらっている。はじめの3年は、鹿に食べられ毎年植え替え。（現在は、1本1本の苗木をヘキサチューブで囲んでいる。ヘキサチューブは1本1000円。苗木より高い。）

野生動物の問題・・・山奥までスギ・ヒノキを植えたので、熊や猪の食べ物のドングリが少なくなった。（ドングリはクヌギ・コナラの実）神奈川では、クマが減り鹿が多くなっている。

鹿は葉っぱや木の新芽を食べる。鹿よけには電気柵・ネット柵、猪よけにはトタン柵。

シイタケ栽培・・・原発事故の後、放射能の為に福島県でシイタケが作れなくなった。それなら自分たちでやろう。クヌギ・コナラを植え、シイタケの菌を植え付ける。

節がある木材の利用法・・・この辺の木の特徴は節が多いこと。アカネトラカミキリ虫が入っているので節ができる。小田原からここら辺の森林はやられている。「虫食い」という。A材でないのもので、燃料として使う。

「共和のもりセンター」の部屋の木材を見て下さい。杉の木を使っています。綺麗な模様みたいですが、「虫食い」部分を丸く埋めています。手間がかかっているが建築材として使える。

茶畑にする・・・山北はみかんの産地で酸っぱいので海外輸出だったが、売れなくなり30年前から、みかんから茶畑に変えてきた。

共和財産地区の木・植林の 8 割は、国の分収造林というもの。何十年間の契約で国が植え、木が大きくなって売れたら収入を国と共和地区で半分ずつ分ける。まきとしてピザ屋さんに売れる。

(この計画は 10ha で、2020 年現在は、止まっている。)

⑦ 川崎市と山北町の交流事業

- ・川崎市は、水源の 1 つである「丹沢湖」がある山北町とパートナー協定を 2012 年に結んだ。

交流事業で、水源環境保全に係る体験活動を行っている。

- ・パートナー協定があるので、富田さんとしては、川崎市の森林環境税を使って山北の材木を買ってもらいたいと考えているが、まだ実現していない。